やまゆりニュース

「やまゆりニュース」第4号　発行日：平成23年2月１日
発行元　NPO法人あさお市民活動サポートセンター
〒215-0021　川崎市麻生区上麻生1-11-5
TEL.044-951-6321　　FAX.044-951-6467
発行人：植木昌昭　　編集人：佐々木直子

川崎市麻生区市民活動支援施設
麻生市民交流館やまゆり

目次：

新春ごあいさつ ー理事長　竹市八郎ー	1
世界の子どもたちに ワクチンを！	1
麻生区の外国人 2000人に近づく	2
外国人サポート団体紹介	2
麻生区に住む Foreign Residents	3
区民講師公開講座 平成23年2月～5月	4

新春ごあいさつ

明けましておめでとうございます。

旧年中は「麻生市民交流館やまゆり」に暖かいご支援を賜り心からお礼申しあげます。

お陰様で、郷土の民謡を尋ねる『ふるさとぶらり旅』・春夏秋冬に開催の『歌声喫茶』など交流促進事業、新しく地域活動をはじめる人への『活動団体や活動場所の紹介』・『区民記者養成講座』と受講者による『あさお市民活動レポート』の発行など市民活動支援事業ともども盛況かつ順調に進展し、関係者より高い評価をいただくことができました。

「やまゆり」を取り巻く環境をみますと、国レベルではNPO法人への寄付金に対する課税の優遇、川崎市では新総合計画(2011～2013)-麻生区第3期実行計画のなかで、主要施策4本柱の1本に「やまゆり」が行う中間支援機能(注※)を明確に据えています。中間支援組織としての「やまゆり」の役割は、麻生区という舞台で演じる役者になるのではなく、演じる役者を支え育てることです。

「やまゆり」は区民による、区民のための運営を基本にしています。本年も皆さまの活動のお役に立つため役員一同力を合わせ、他団体とも連携し、電子媒体を活用した鮮度の高い情報の提供、人材紹介、イベント開催にかかわる相談など、やまゆりならではの事業に取り組みます。

どうぞ引き続きご支援を賜りますようお願申し上げます。

NPO法人 あさお市民活動サポートセンター
理事長 竹市八郎

（注※）行政と市民活動団体の中間にあって、活動目的達成に必要な資源(リソース)の需要と供給をマッチングさせる機能。活動に必要な資源とは人材、活動の場所、資金及び情報とされている。

世界の子どもたちにワクチンを！　エコキャップ収集活動にご協力ください

「やまゆり」では、開館当初より社会貢献活動を心がけてきましたが、そのひとつの活動として「エコキャップ収集活動」に参加しています。

当館ご利用の方々のみならず、団体としてのご協力もいただいており、皆様の温かなご支援に感謝しております。

収集されましたペットボトルのキャップは、「NPO法人エコキャップ推進協会（内閣府承認）」を通じて再利用され、その収益金で世界の子どもたちにポリオワクチンが提供されています。約800個のキャップで1人分のワクチンとなります。

これからも、この活動を続けて参りますので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

なお、ペットボトルのキャップより大きいものや、金属のキャップは収集できません。シールなどもはがしていただくと再利用の効率があがります。

よろしくお願いします。

麻生区の外国人、2000人に近づく

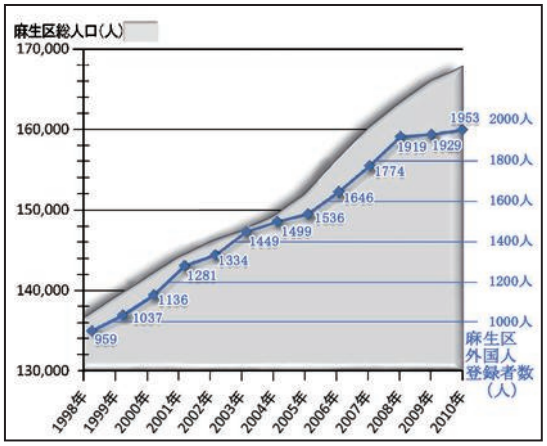
麻生区の駅や街頭で外国人と会う機会が多くなってきた。近所で会釈する外国人も増えている。本企画では国際交流の活動や区内で生活している外国人の声を紹介する。

麻生区の外国人は、区民人口の右肩上がりの伸びと歩調を合わせ2000人に近づいている。（表1）
その数は川崎市7区中7位と低位置だが、この12年間には1000人近く増え、6位の宮前区の700人余を上回っている。国籍別にみると中国を筆頭に韓国・朝鮮の近隣諸国が半数を越え、次いでフィリピン、米国など世界67か国にのぼる。（表2）

川崎市は外国人に市制参加を推進するなど外国人施策の先進自治体といわれている。麻生区でも90年代初頭から自発的な国際交流がみられる。外国で暮らした経験を持つ方や，国際結婚などで帰化された区民による地道な文化の交流が広がっている。（表3）

（区民記者　池山幹夫）

（表１） 麻生区総人口と外国人登録者数の推移



（表3）
麻生区内で活動する国際交流サークル

サークル名	活動開始
英国文化研究会	1991年10月
スカール・リリー	1993年6月
ファンキーキッズ	1995年10月
麻生国際市民ひろば	1996年3月
国際交流あさお	1998年12月
香香（シャンシャン）	2001年5月
ホームサム・ライフを進める会	2002年6月
麻生外国人医療情報ヘルプライン	2007年1月

（表2）
麻生区国籍別外国人登録者数

国籍	人数
中国	788
韓国・朝鮮	389
フィリピン	144
米国	112
ブラジル	48
英国	40
タイ	40
ペルー	27
スリランカ	25
インド	25
ベトナム	23
インドネシア	22
ロシア	21
マレーシア	19
オーストラリア	18
カナダ	14
イラン	14
ミャンマー	14
ドイツ	14
その他48か国	156
67か国	1953人

川崎市「外国人登録国籍別人員調査表」
（2010年9月末日現在）

外国人サポート団体紹介

充実した資料で優しく対応します

麻生外国人医療情報ヘルプライン
代　表：酒井真理子
設　立：2007年1月
相談先：044-951-6468
活動日：毎週月、金曜（祝日は休み）
活動時間：10時～15時

外国人向けに無料で医療情報を提供！「ヘルプライン」

言葉の壁で不便を感じている在日外国人に、医療情報を提供する目的で3年前に設立。メンバーは30名（9割が女性、50歳代が主体）。活動は毎週月、金曜日の昼間。英語、スペイン語、中国語のできる相談員が、相談者の希望する地域、言語で受診できる医療機関、公的健診や保健制度などの情報を、電話で提供している。料金は無料。
代表者の酒井さんは、英国で生活しているときに、手厚い保健行政サービスを受けた。帰国して、外国人に対する、日本の医療支援の乏しさを感じ、活動をはじめた。電話相談だけでなく、公的健診、予防接種に際しても、行政の依頼に応じて、各言語担当者が保健所に出向いて外国人をサポートする。また、会の資金調達、宣伝と地域の交流を兼ねて、メンバーを講師とした料理、英会話教室などを開いている。ｗｅｂサイトは、「asaohelpline」で検索可能。英語、中国語、スペイン語版がある。近隣の外国人にも是非紹介を！　また、韓国語、中国語、スペイン語などや、パソコンの得意なメンバーを募集中。

（区民記者　中島久幸）

紺野美沙子さんの講演会とハロウィン

ファンキーキッズ
発起人：百武千文
設　立：1995年10月
相談先：044-952-3766
活動日時：隔週火曜　10時～12時
対象年齢：１才頃～～幼稚園入園まで
会　費：300円／月（一児につき）

ひとりじゃない！ 国際子育てサークル「ファンキーキッズ」

母国を離れ一人で子育てしている外国籍のママたちを、日本のママたちが応援したいと考えて1995年に立ち上げた子育てサークル。発足初回は母子30組が参加した。国籍はアメリカ、韓国、中国などそして日本である。開催は月一回からスタート、後に隔週で開催するようになった。参加者の共通語は日本語、会話の中心は子育てだ。こども文化センターを拠点に公園、おいも掘り、消防署見学、クリスマス会などママたちがアイデアを出して活動している。日頃時間に追われ外へ出るのも大変なママが、一歩踏み出しサークル活動に参加すると共通の悩みを参加者でシェアできたり、イベントの成功で達成感を味わったりしながら自分自身も成長。
発足して５年後、卒会生のママたちが「ファンキーキッズ」のサポートや女性として母として国際協力の在り方を探ることを目的に「ファンキーマム」を立ち上げた。活動内容はインドの子どもたちの養育支援、諸外国の現状勉強会の開催など。「マム」と「キッズ」の両輪で仲間の輪をひろげてほしいと感じた。

（区民記者　本間和雄）

前向きで、明るい行動派　ー李春江さんー

自分を変えよう！　と18年前、生地北京を飛び出し、友人を頼って東京へ来た。アルバイトをしながら日本語を学び、6年ほど経った頃、中国人の友人の勧めで、初めて中国語を教える仕事についた。今では大手企業、専門学校、そして麻生区内の教室で中国語の先生をしている。柔道と母親の手作り料理が大好きな小学3年生、中学1年生二人のお子さんとご主人との４人家族。麻生区に移り住んで12年。「貴重なアドバイスを頂いたり、励ましてもらったり、麻生のみなさんは私の人生の先生」と明るく笑う。

家事育児のかたわら、桜美林大学に学び、大学院国際学修士課程を卒業。地域の「麻生国際市民ひろば」などにも積極的に参加し、交友の幅も広い。気がかりはお子さんが通う公立学校の学力レベル。「塾に通わないですむように」が願い。趣味は旅行。金門橋をお子さんと一緒に自転車で駆け抜けたこともある。「大学で中国語を教え、日中の相互理解に貢献する」という夢を持っている。

（区民記者　飯田保幸）

あさお区だ〜い好き

中国語を勉強してみませんか？

頑張れ、若者！　元気な日本！　ー富樫ソニアさんー

今の日本が心配

笑顔が美しいソニアさん

30年前、ブラジル勤務中のご主人と知り合い、ご主人の帰国に伴い麻生区に住むようになった富樫ソニアさん。初来日は12月だったこともあり、日本は寒い国だという印象。お風呂につかるという習慣や食物の違いに戸惑ったという。しかしソニアさんは日本語がまだよく理解できない頃から近くの学校の運動会やお祭りに参加して、地域に早く溶け込もうとした。現在は地元のリサイクルショップで日本人スタッフと一緒に活動している。お客さんにはお年寄りも多く、その生活が大変だということを実感している。

ソニアさんの心配は今の日本や若い人が30年前の日本の良いところを失ってきていること。困っている人を助けてあげる親切な心や、電車内のマナーは昔の方がずっと良かったと嘆く。

はじめての国での生活に慣れないことも多かったと思うが、麻生に根をおろし、日本の現状を心配しているソニアさんは、日本は以前のように活気に満ち溢れた国にならなければいけないという。

（区民記者　橋本敏次）

いろいろな国々の素晴らしさをもっと知ろう　ーシュレスタ・ウデスさんー

シュレスタさんはネパールにいるころから、日本に強い関心を持っていた。特に象形文字から進化した漢字、その深さを知れば知るほど日本の魅力にとりつかれた彼は、もっと日本を知りたいと、1991年に来日、国立にあるYMCAホテル学校に入学、現在市内のホテルに勤務。緑の多い麻生区が大好きで、日本人の奥さん・娘さんと住んでいる。

外国人の目に映る日本社会は「豊かさを持ちながら、一方で社会の色々な歪をみせている。２４時間営業のスーパー、ＴＶゲームに熱中する子どもなど、何か大切なものが失われているのでは」と評価している。携帯電話は持たず、自然な時の流れを大切にして、家には小さなTVしか置いてない。「日本人は最近、急ぎすぎているのかもしれない」と語る。

シュレスタさんは、自国の恵まれない子どもたちへの愛情から、個人で援助活動をしている。

夢は「いつも人の役に立っていたい。そして、日本とネパールの架け橋にすこしでもなれば」だ。

（区民記者　植木昌昭）

地球人でありたい！

上手な日本語で話されるシュレスタさん

はみ出し情報

今回、第2回区民講師公開講座（5月22日）で【ネパールからの便り】として話をされる。是非、多くの人たちに聞いて欲しいものだ。

★昨年好評の区民講師公開講座が今年もはじまります★

今年は外国の方も参加されます

2月

日	時間	テーマ	講師
13日(日)	13:30～16	講師と一緒に　ブログを作りませんか？	古川　ひろみち
20日(日)	14～16	水に、かかわる話し	土屋　隆夫

3月

12日(土)	14～16	どじょうすくい踊りで健康づくり	三浦　清市
13日(日)	14～16	薬用食物を楽しもう	児嶋　脩
22日(火)	14～16	健康吟詠で体力増進	羽村　憲人
26日(土)	10～12	二ヵ領用水　完成400年前の謎を解く	金子　忠司

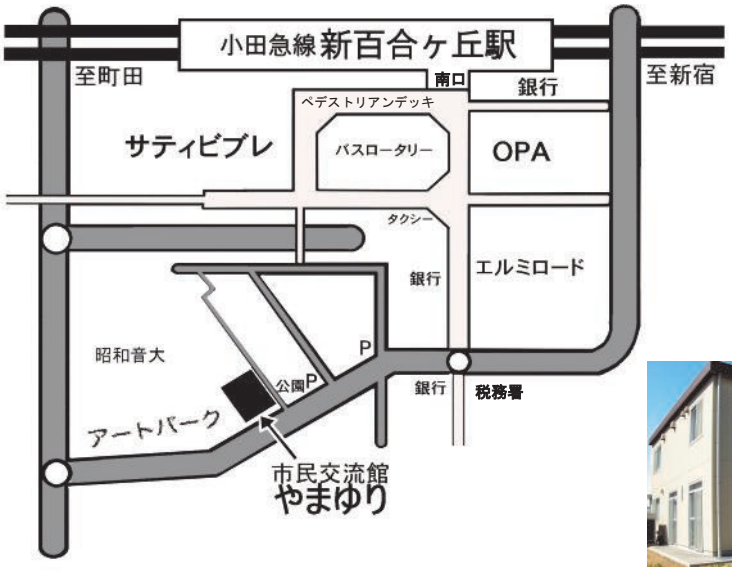
4月

2日(土)	14～16	孫子に学ぶ！健康管理 病気の予防、まず体内の栄養状態を知る。	鴇沢　一男
10日(日)	14～16	手作り旅行(英国編) ツアーが嫌いだという あなたに	荻生　和成
16日(土)	14～16	縄文時代・縄文文化・環境問題	田中　元介

5月

7日(土)	14～17	心理学を使ってコミュニケーション力アップ	小野　路子
10日(火)	14～16	韓国の簡単なあいさつを学び、食文化を知る	クォン　ソヨン
22日(日)	14～16	ネパールからの便り	シュレスタ　ウデス

開催月の1ヶ月前に、講座のチラシを配布いたします。詳細はチラシを参照ください。
申込はチラシにてお願いいたします。
主催　NPO法人あさお市民活動サポートセンター



市民交流館やまゆり

NPO法人あさお市民活動サポートセンター

〒215-0021
神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5
TEL.044-951-6321　FAX.044-951-6467
小田急線「新百合ヶ丘」駅　南口から徒歩4分

開館時間

月～金　9時30分～17時
※平日夜間・土日も予約すれば利用可

休館日

祝日、年末年始(12/29～1/3)、施設点検日